

<参 考>

地域産業連関表とは

地域経済を構成する各産業は、域内・域外の産業と相互に密接な取引関係を結びながら生産活動を行い、その連関関係が地域独自の産業構造を形成しています。

具体的には、ある一つの産業は、他の産業から原材料や燃料などの財・サービスを購入（投入）し、これを加工（労働・資本などを投入）して新たな財・サービスを生産します。さらに、これを他の産業に対し原材料等として販売（産出）します。このような関係が各産業間で連鎖的につながり、最終需要者に対して必要な財・サービスが供給されることとなります。

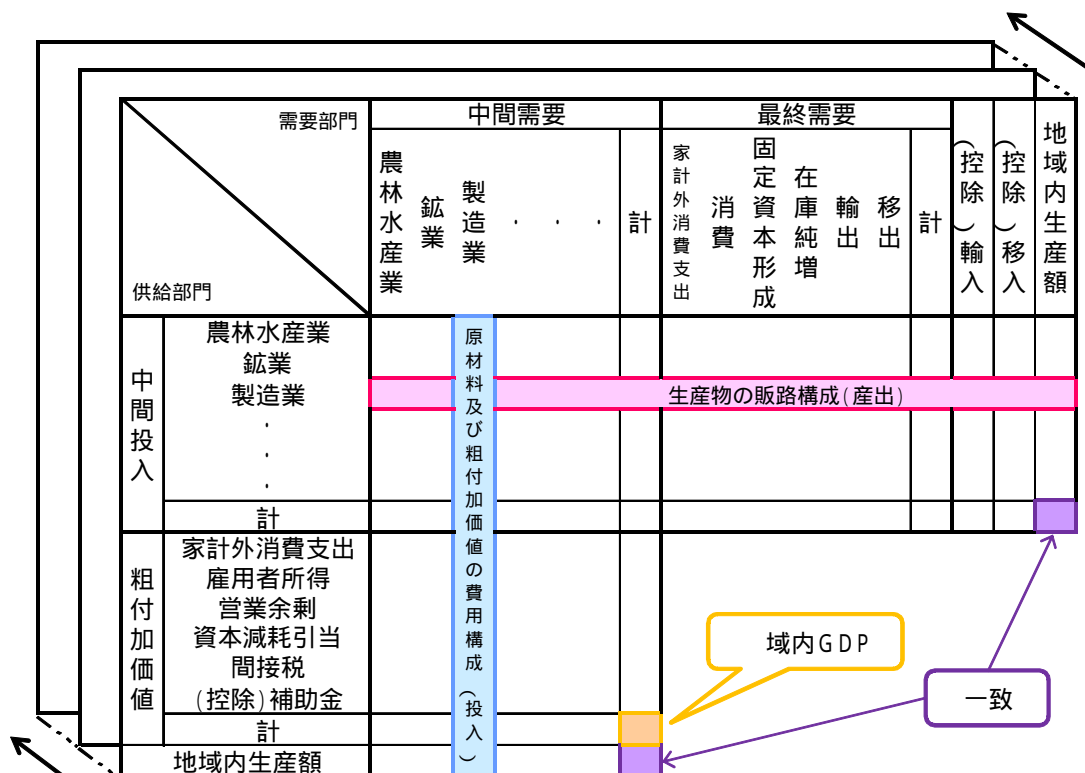
地域産業連関表は、このような産業間の取引をまとめたもので、一定期間（通常1年間）に行われた財・サービスの経常的な取引をひとつの表（マトリックス）にまとめたものです。

表の各数値を縦（列）にみると生産活動に要した費用（投入）の内訳が、横（行）にみると財・サービスの販売先（産出）が示されており、投入・産出表（Input-Output tables）略してI-O表とも呼ばれています。

経済産業省及び沖縄県は、全国を9つの地域に分割して各地域の産業連関表を作成しています。地域間の取引は「移出」、「移入」と表しており、表中のそれぞれの値は9地域分足しあわせると総務省公表の全国産業連関表に整合します。

地域産業連関表の利用

地域産業連関表は、表自体で作成年次の産業構造が読み取れますが、表の主な利用方法として産業連関分析の手法に基づいた経済構造の分析、経済の予測、経済政策の効果測定などがあります。



9地域産業連関表（北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄）  
合算すると全国産業連関表に整合